

令和 5 年 第 9 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和5年8月31日(木)

開会午後1時00分、閉会午後1時47分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	黒田 卓	2番	町野 利道	3番	村上 美也子
4番	坪池 宏	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

理事・教育次長	水落 仁	教育次長	中崎 健志
参事・教育企画課長	福島 潔		
教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)		中家 立雄	
教育企画課課長(ICT教育推進担当)	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和5年6月30日開催の令和5年第7回富山県教育委員会会議録

令和5年7月10日開催の令和5年第8回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第27号 「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」の改訂に関する件

小中学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 臨時代理について(教育職員の人事異動に関する件)

教職員課長から説明した。

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査について

小中学校課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後1時39分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第28号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 28 号 富山県青少年自然の家指定管理候補者選定委員会委員任命の件
生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 28 号については、適切な時期に公表することを決定した。

6 議事

○議案第 27 号関係

〔町野委員〕

・最近特に思っているのだが、特に管理職のことについて、ここでは管理職の資質について言っているけれど、資質はほとんどの人がだいたい合格点になる。結局、何が問題かという現場を見ていない。今回の日大の内部の問題についても管理職の皆さんがいかにも現場を見ていないかという1つの表れなんですね。いろんな会社でもつついっような問題を見ると管理職の資質というところにもっていってしまうけど、実際は現場を見ていない。是非、校長、教頭、この人たちの現場を見る力を上げるような努力をされたらいいのではないかと思う。

○報告事項(2)関係

〔坪池委員〕

・学力テストのことだが、新聞等々で過去問題をやることについて一体どうなんだという報道があるが、テストの直前に過度に練習すればテストなので妥当性や信頼性の問題は当然出てくると思う。ただ学習指導要領で思考力・判断力・表現力みたいな言葉が出ているけれども、実際にどういうことかということが学校ではなかなかわからない。でも問題を解くことによって子ども達もどんなことを学んでいったらいいかということについてはリアルにわかってくるはずだ。ですから、直前ではなくて教育活動の中にうまく入れていって、そして指導と評価の一体化をさらに図っていく必要があると思う。ただ、そういうプリントが家庭にあって家族が見てこんなことをやっているのかというふうな言い方をされるケースも考えられるので、そのあたりはしっかり学校が説明しながらやっていく必要があるのではないかと考えている。もっともっと活用すればいいと思う。

〔小中学校課長〕

・ありがとうございます。直前の練習ということが過去にいろいろと問題になりましたが、児童生徒への指導の充実、改善等に役立てることは大切だと思うが、問題の正解を求めるためだけに扱うのは適切さを欠いているのではないかと考える。小中学校課、総合教育センターにある学力推進チームを中心として問題分析を行い、先ほども申し上げたが無答とか誤答とか得意な面も分析して日頃の教育力向上、そして授業改善に活かしていきたいと考えている。

〔坪池委員〕

・ちょっと伝わりにくかったかもしれないが、子ども達に過去問をもっと積極的に取り組ませたらいい、単元の終わった後に確認テストにうまく差し込んでいってとか、言いたかったのはそういうことだ。
・文科省の誰が作っておられるのかわかりませんが、どんなことを学んでほしいかという願いが込められているのですよね。だから、それはやっぱり子ども達に実際にさせて、そして振り返らせてこういう問題ができるようになるという、そういうことを授業の中に生かしていったらいい。ああいう報道が出ると過去問をやることについて教師の方が臆病になってしまう。それはちょっとどうかと思う。

〔教育長〕

・本来の目的というか目指す方向できちんと活用することは必要ではないかと。他の委員の皆様はどうか。

〔村上委員〕

・どんな問題が過去問なのかかなと思って見ていたら、田んぼに雑草が生えて生えすぎると収穫量が減るとか、そういうのが出ていた。こんな難しい問題だったのかとはじめて知って、ああいう問題は教科の中の普通の

中で解いているものなのか。全部ほんとうに先生がおっしゃるように良い問題だと思う。様々な回答があると思うが、導き出すためには随分なステップを踏んで子ども達自身が考えることが必要になってきて、この問題1つで時間かけてやったらいい内容だと思った。

〔坪池委員〕

・おっしゃる通りだ。

〔村上委員〕

・普通の授業の中ではなかなかこういうことにじっくりとやるのは。

〔坪池委員〕

・なかなか十分な時間を割くことは難しいのが現状だと思う。そういうものを取り扱っていく時間も大事だが、そういうものをうまく入れていった方がいいと思う。今の特に応用問題の中の「応用」というのは、学んだことが実社会でどれ位役に立つかというロジックで作られている。

〔村上委員〕

・そこまで踏み込んで作られている問題を過去問一括りでいけないというような報道に関しては、いかがなものかと思う。おっしゃるように問題への取り組みせ方を工夫しながらやっていってはどうかと。

〔坪池委員〕

・どの問題も読解力。読解力というと我々のイメージのものとは少し違っていて、東京都なんかはもう少しわかりやすく「読み解く力を育成しよう」と言っているのだが、教科だけでなくほんとうの地頭をどう鍛えていくのがテストに反映されているので、こんなこともできなくてはいけないのだと子ども達が自覚してくれることが一番大事ではないかと思う。

〔教育長〕

・知識とかではなくて、それをどう活用するかを求められている。それがまさに出題されているということですね。

〔坪池委員〕

・総合的な学習の時間を充実させると近くなるかもしれない。

〔教育長〕

・科目を横断するような発想とか、そういったこともある。

〔町野委員〕

・教育の講義やっていて、いつも言っているのは扱う情報量が30年前あたりと比べて一桁あがっている。会社の中で仕事をする時に、そういうことを考えて会社でも教育の機会をつくることをやっているのだが、基本的に学ぶ力、そういうものを上げていくことが大事なのだろうと思う。人間の脳はほんのちよっとなら使っていないわけで、昔の私たちの頃よりも今の人間は一桁多い情報量を扱っているわけで、それでもみんなちゃんとやっているのだから、そういう意味ではまだこれからもっとそういうふうになるのだろう。そういう意味では基礎的なものと学ぶ力というものをよく考えた形での教育をしなくてはいけないと思う。

〔黒田委員〕

・いま過去問の話が出てきたが、富山県は以前から結構思考させるとか良い問題をつくる素養があって科学オリンピックもそうだと思うし、民間になると思うが、思考大会みたいなものが伝統的に行われてきている。その中に非常にいい問題がいっぱい作られていると思っていて、そういったものも活用していく、学校の先生方も過去出題された問題を見ていただけるようにして、いろいろ授業に使っていただくようにするのも今後考えていったらよいと思う。

〔教育長〕

・科学オリンピックについては先だって官民協働事業レビューという、いろいろな事業を評価をされていく中に科学オリンピックも取り上げられたのだが、参加する子どもだけではなくもっと成果を広げていく視点も大事だという意見もいただいていたところなので、その意見も関連するなと思って拝聴した。

○その他

〔大西委員〕

- ・昨日だが高岡ブロックのPTAと県P連との交流会があって、いくつか話し合ったことで感じたことだが、皆さんが大きく時間を割いて話し合った内容として部活動の地域移行についてと学校行事やPTA事業が変わってきているということについて大きく時間を割いて話し合われた。
- ・まず部活動の地域移行だが、高岡ブロックというのは射水市と高岡市と氷見市になるのだが、射水と高岡ではこの春から休日の地域移行がはじまっているけれども氷見市はまだ取りかかっていないと言われまして、進捗はバラバラなのかなと思った。その上で射水市ではアンケートが実施されて、モデルの競技である柔道、剣道、バスケットについてアンケートが取られているということで、柔道では90%、剣道では84%の保護者、生徒が満足しているのに比べてバスケットでは38%の満足率ということでちょっと低いと。その理由については既にクラブチームがいくつかあるから、土日だけの地域移行について満足度がそれほど高くないのではないかと分析がされていた。2月の教育委員会でふれたのだが、保護者や生徒の負担としては会場までの移動や道具の運搬や管理ということで、特に剣道部は道具が非常に大きなものになるので、保護者が金曜日に学校に引き上げに行き月曜日の朝また運び入れをするということを毎週行っているということで、少し負担に思っているということも言われていた。今後文化部もということになると楽器を扱う部活動はどうなるんだろうなとふいに思ったところだ。先生方は80%以上が土日の部活動の地域移行によって負担軽減につながったと回答されているということだった。ただアンケートの中では平日の学校で行う部活動での目標を持ちにくくなった生徒が出てきているということで、生徒の心のケアが必要という意見もあったということだ。先生方の負担が軽くなったのはいいのだが、地域部活動に参加していない生徒たちが平日だけの部活動の意味とかについて、大会に出て良い成績をとるところまで行けなくなっているのかなと感じたところだ。
- ・学校行事とかPTA行事が簡略化とか、コロナ禍を経てだが、中止のままになっていることも話題になった。学校行事については先日も言ったが、射水市では体育大会がスポーツフェスティバルという格好になって、射水市では全小中学校が半日開催に統一化されたことも先日申し上げたところだが、PTAの事業もそれに伴ってバザーとか資源回収とかが縮小とか中止のままになっており、その中で地域とのつながりをどう作ったり育んだりしていくのか。高岡市のPTA会長に行ったアンケートでは「地域に何か協力してもらっていますか」という質問に対して36校中9校が「ない」と回答されている。会長がそう答えているということは、学校なり子ども達に対して地域が協力していることがまったくないと保護者が感じていることになるので私は驚愕した。学校、子ども、保護者、地域のこのつながりが希薄化していると感じたのだが、今後かならず社会の中で生活していく一員として役割を担っていく力を子ども達に身に着けてほしいのに、これで大丈夫かなと心配したところだ。

[教育長]

- ・地域部活動については、それぞれの市町村の状況、競技種目、競技団体、支援状況によっても異なっていると思うし、地域によって少し差があるのは実態としてあると思う。そういう中でできる体制をとれるところから少しずつ進めていくのが現実的なこれからの流れかと思っている。おそらく保護者の皆さんとか各地域の皆さんはそれぞれちょっと違うねというところを疑問視される動きもあるかもしれないが、実態として対応できるところ、できないところがどうしてもあると思うので、そのところはお互いコミュニケーションをとりながらやっていかなくてはいけないと思う。一部満足度が低い競技等もあり、事情があってということだが、全体的には8割以上の満足度があるということは成果が上がっているのかなと思ってお聞きした。
- ・学校行事については、コロナで休止したものがそのままという地域もあるということですね。そこはそれぞれの学校なり地域での判断があると思うけれど、やはりPTAの皆様も学校、地域と、今後どうしていくのか話し合いをしていただくということだと思う。地域との連携が深いというのが富山の教育の1つの良い伝統かなと思っているので、社会の変化もあるが、今後どういう形がいいのか、それぞれが考えていくことかと思う。

[町野委員]

- ・ジャニーズ事件の問題、これを見ていて、いよいよ日本もこういう時代に入っていく、今までは煙が立っただけだけど火が燃えてきたから、これから大きく変わる。いわゆる性教育というものを見た時に学校でやっている性教育は肉体的なものだけじゃないかなと。今までは。精神的な性教育について、つまりジェンダー問題についてこれからどういうふうにしていくのか、考えていかなくてはならないだろうと思う。

・もう1つは不登校問題。不登校で実際に学校へ行こうと思ったら頭が痛くなったり腹が痛くなったり肉体的な痛みが出てきたりするわけですね。そういうことを子ども達に説明できているのかどうか。自分と同じ学校に来ている子どもが不登校になった。そういう時にクラスみんなが理解するだけの情報を与えているのかどうなのか。そういうものを何か今までは、私だけかもしれないけど、秘密に秘密にして表に出さない。子どもらは我々が思うよりずっと優秀なんです。だからもっと開示してもいい。あまり隠さないで、もっと開示してもいいと私は思うので、これからそういうところを契機にして変えていかななくてはならないだろうと思っている。

[保健体育課長]

・保健の授業の中で性に関する授業、指導をしているし、教科書にも精神面に関する、相手を尊重してお互いに理解し合うというフレーズや何か確かあったと思うし、そういう面での指導もしていたかと思う。

[町野委員]

・男が女だと思ったり女性的な行動をとったり、そういうものをきちんと出しているのかどうか。

[村上委員]

・多分そういう冊子が小学生に配られていると思う。男の子だからこういう遊びとか、女の子だからこういう遊びというのではなく、好きなことをするというジェンダーに関わる教育が小学校の中くらいの学年から冊子を配ってあって、子ども達が抵抗なく受け入れられるような大変すばらしい冊子があって、そこから始まっているかなと思う。性教育はまだ不十分だと思うが、そういったものが先ほど言われたことにはやっとなしふれられているかなというところがある。

[教育長]

・その発達に応じて小学校は小学校なりの、中学生はこう、高校の段階ではこう、と深めるための体系的に保健体育科を中心に教科の中にも組み込まれている。村上先生からご紹介あったように副読本的なものも作っている。また最近のジェンダーの問題、LGBTの方もおられて、そういうことも含めて教育の内容も刷新されているところだ。

[村上委員]

・ひょっとしたら子ども達の方が新しい情報を知っているかもしれない。

[小中学校課長]

・様々な理由から学校に足が向かない子どもが近年出てきているということだが、理由に関しては様々な考えがあって、とてもデリケートかなと思う。ご家族とかご本人が望まない上で開示になるのはいかがなものかと私個人は思うが、丁寧な対応をしつつ、そういうことを検討していきたいと思う。

[教育長]

・子どものそういう不調とかを教員が早めに察知して不登校の問題になるべく早く気づいて、早くから支援、関わりを持つ取り組みは充実させてきているところだ。教師向けのガイドブックを作ったり、研修をしたりということで理解を進めているところだ。

午後1時47分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。